ＪＡはだの

発行
秦野市
農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711㈹
発行責任者　宮永　均
印刷所　㈱JA情報サービス

特定生産緑地へ移行を

農業振興に農地保全は不可欠

21年は重点期間

働き掛け強化

生産緑地の指定を受けている農地

税制優遇措置を受けることができる生産緑地の当初指定から、30年が経過する2022年。引き続き、同措置の対応を受けるためには特定生産緑地への指定手続きが必要だ。指定から30年を過ぎると移行できなくなる他、生産緑地を継続するか否かは多角的な判断が重要になるため、ＪＡは21年を重点期間と位置付け、対象の農地を所有する組合員に対して、早期に対応するよう呼び掛けている。

市内で生産緑地の当初指定（1992年）となっている農地は571カ所、82・4㌶。22年で指定から30年を経過する対象者は約420人に上る。昨年10、11月に行った20年度分の申請受け付けで、約半数の200人ほどが手続きを終え、そのうちの大多数が特定生産緑地への移行を決めている。

ＪＡは、都市農業の振興に必要不可欠な農地の保全に取り組むため、指定申請の支援に力を入れている。早い段階から機関紙「ＪＡはだの」などで組合員に周知した他、市まちづくり計画課と連携し、申請手続きに関してもバックアップ体制を構築。各担当部署間で情報を共有し、指定手続きをはじめ、土地利用などの各種相談に応じている。

20年度分の申請受け付け期間には、各支所・支店が指定手続きに関する提出書類を事前に確認する仕組みを用意。職員が記入箇所や必要書類に不備がないかチェックし、市への書類提出が一度で完結するよう組合員をサポートした。

今後、秦野市では21年夏と22年春ごろにそれぞれ申請を受け付ける予定。ＪＡは農産物供給や環境保全などの機能を持ち合わせる農地を引き続き守ってもらうため、市と連携して、まだ申請を済ませていない生産緑地の所有者に働き掛けていく方針だ。

生産緑地

市街化区域内の農地に対し、30年または負傷などで営農できなくなるまでの転用制限を条件に、課税を軽減する制度。本来宅地並みとなる固定資産税が、生産緑地に指定することで農地並みに軽減されるもの。相続税の納税猶予も利用できる。

ケアセンター廃止に

20年の歴史に幕

長年にわたり、組合員や利用者の介護支援に携わってきた「ＪＡはだのケアセンター」を、2021年2月末日で廃止する。

ケアセンターは、2000年4月に本所農業団地センターで発足した。高齢者を介護する家族の負担軽減を目的に開設。利用者の自宅で入浴や食事などを介助する「訪問介護事業」と、本人や家族の希望を把握し、ケアプランの作成や介護保険に関する手続きの代行などを行う「居宅介護支援事業」の二つの事業を進めてきた。

02年には本町のさわやか館に、04年にはＪＡ神奈川県厚生連が運営する「ＪＡデイサービスセンターはだの」内に事務所を移し、多くの利用者にサービスを提供してきた。

近年は、介護者のニーズが訪問介護から、デイサービスや施設への入所などに移り変わり、利用者が減少傾向にあった。加えて、訪問介護員の高齢化・従事者不足などの課題があった。こうした状況を踏まえ、廃止が決まった。

ケアセンターの廃止を受け「ＪＡデイサービスセンターはだの」が、2月1日から新たに居宅介護支援事業をスタート。ケアマネジャーによるケアプランの作成などを引き継いで行っている。

介護に関する相談や問い合わせは、生活福祉課☎72－7661、またはＪＡデイサービスセンターはだの☎85－5177まで。

さわやか館にあったケアセンター事務所（2002年撮影）

追悼　山口政雄組合長逝く

山口政雄組合長が11日、71歳で亡くなり、17日に親族による葬儀が行われた。ＪＡはだのと山口家の合同葬は、3月6日（土）午後1時30分から、ＪＡセレモニーホールはだので執り行う。

山口組合長は、1949年11月6日、菩提の生まれ。68年にＪＡはだのに入組し、37年間職員として勤務した。2006年に常務理事に就任、09年には専務理事となり、15年からは約6年にわたり代表理事組合長を務め、ＪＡはだのの発展や秦野市の農業振興に寄与した。

組合長就任後は、政府が進める農協改革のもと、ＪＡはだの代表としてかじを取り、難問が山積する中で協同組合運動を実践した。18年には福島県のＪＡ東西しらかわ、福岡県のＪＡにじと「友好ＪＡ協定」「災害時相互支援に関する協定」を締結。19年3月には生活協同組合パルシステム神奈川と「事業連携を通じた地域振興・地域貢献に関する包括協定」を結んだ。ＪＡ間連携や協同組合間連携により、農業や食の大切さ、協同組合組織の果たす役割などを広く地域住民に伝えた。

優しく穏やかな性格の山口組合長は、多くの人に親しまれてきた。半面、自身の信念を貫く剛直さと気骨があり、組合員から強い信頼を寄せられていた。

東・西給油所の営業時間を変更

午前9時～午後6時に

4月1日（木）から

4月1日（木）から、東・西給油所の営業時間を午前9時から午後6時までに変更します。

なお、大根・北・上支所の給油所は、今まで通り午前8時30分から午後5時まで営業します。

ご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

お問い合わせは、経済課まで。☎81－7717

2月訪問日はポスト投函

コロナ感染防止へ簡略化

2月の組合員訪問日は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため訪問方法を簡略化し、機関紙「ＪＡはだの」のポスト投函での対応とさせていただきます。

組合員の皆さまの健康や安全を第一に考えた上での対応ですので、ご理解をお願いします。

ご用件のある方は、各支所・支店までご連絡ください。

今月の特集
4～5面

若手が農産物の魅力伝える

秦野の農産物のおいしさを多くの人に知ってもらおうと、農業・商業の両分野で若手が活躍。農家と飲食店などが手を取り合っている。

〝大切な人〟へ秦野の花

バラで「愛」と「感謝」を

贈り物きっかけに家でも

大切な人に花を贈って――。秦野市は、県内有数の花の産地。生産者は毎年この時期に、バレンタインデーやホワイトデーに合わせて、出荷作業に励む。

花き部会バラ部の成田洋部長は、約36アールのハウスで、赤や白を中心に7品種のバラを栽培。丹精して育てたバラは、厚木市や東京都の市場に出荷する他、じばさんずなどでも販売している。

成田さんが丹精して育てたバラ

海外でバレンタインデーに男性が女性へバラを贈る習慣を日本でも取り入れようと、2011年に(一社)花の国日本協議会が制定した「フラワーバレンタイン」。1月31日の「愛妻の日」や、3月14日の「ホワイトデー」にも花を贈る文化の定着を図っている。

バラの花言葉は「愛」。大切な人に日頃の感謝や気持ちを伝えるのにぴったりだ。最近ではフラワーバレンタインに贈る花が多様化し、カーネーションなども人気を集めている。

成田部長は「花を贈って日頃の感謝を伝えるのはもちろん、贈り物をきっかけに家にも飾り、花がある生活を楽しんでほしい」と話した。

好みの味を探そう

かんきつ類じばさんずで人気

ミカン、ポンカン、ネーブルオレンジなど、種類豊富な秦野産かんきつがじばさんずで人気だ。かんきつ類には、ビタミンCが豊富に含まれているため、肌荒れや風邪予防に効果があるといわれている。手軽に食べることができ、免疫力アップにも効果が期待されるため、多くの来店者から注目を集めている。今期は日照時間に恵まれ、全体的に品質は上々だ。

同店は「さまざまな種類のかんきつを試して、自分の好みの味を見つけてほしい」と話している。

じばさんずに並ぶ秦野産かんきつ

緑のまちづくりで大臣賞

今泉あらい湧水公園周辺地区

意欲的な区画整理が評価

今泉あらい湧水公園周辺地区が「第16回住まいのまちなみコンクール」(まちづくり月間全国的行事実行委員会など主催)で最優秀の国土交通大臣賞に輝いた。区画整理を行った「秦野市秦野駅南部(今泉荒井)区画整理組合」の理事長を務めた三杉克篤さんが中心となり、諏訪町自治会が応募した。

同地区は、かつて3・2㌶ほどの田畑が広がっていたが、耕作放棄地が増え、荒廃が進んでいた。三杉さんは「駅から近く豊かな湧水に恵まれている土地なので、価値を高めて次世代に受け継いでいきたい」と考え、2012年に同組合を立ち上げて区画整理に乗り出した。JAはだのも事務局として、同組合をサポートした。

コンクールでは、荒廃していた田畑の土地区画整理を同組合のメンバーが協同で行ったことや、地域のシンボルとなっている同公園を地域一体で守っていることなどが高く評価された。

今泉あらい湧水公園周辺の区画整理に尽力した三杉さん

三杉さんは「関わった方々の協力のおかげで、素晴らしい賞をいただけて光栄に思う。豊かな湧水や自然環境は郷土の宝なので、今後も地域で協力して守り、引き継ぎ、育てていきたい」と笑顔を見せた。

接近!おじゃします (382)

消費者のニーズに応えたい

堀山下の
山口 哲治(やまぐち てつじ)さん(41)

堀山下で露地野菜を栽培する山口哲治さん。農業に励む父の姿を見て育ち、会社勤めを15年経験した後、自分の考えで自由に仕事を進めることができる農業に魅力を感じて2013年に就農した。

就農当初は、栽培管理などを父や近所の農家に教わりながら、試行錯誤を続けてノウハウを積み上げてきた。現在は父と共に、約1㌶の畑でサトイモやヤーコン、ダイコンなど年間15品目以上の野菜を栽培。出荷先の一つであるじばさんずでは、消費者のニーズを直接聞き取り、同じ品目でも甘さが強いもの、控えめなものなど、味の異なる品種を取り入れて多様なニーズに対応している。

農業に励みながら、所属する青年部の活動にも積極的に参加。山口さんは現在、同部の委員長を務めている。感染症の影響でほとんどの行事が中止となってしまったが、同部のイベント「ユースマルシェ」では、部員と協力してじばさんずで野菜の対面販売をしたり、収穫体験の場を提供したりして、多くの人に秦野の農業をPRしてきた。「消費者と直接交流することが楽しみの一つになっている。野菜を食べた人の感想や意見を聞きながら、積極的にニーズに応えていきたい」と話す。

今後について「青年部の仲間とのつながりを大切に、状況を見て少しずつ活動を再開させていきたい。これまで経験してきたことを生かして、就農を志す人の手助けもしていけたら」と意気込む。

やえのちゃんぴーなマンの「JAってなに??」

おうち時間に「コンテンツ」

ぴーなマン

最近は家の中で過ごす時間が多くなったから、何か家で楽しめるものはないかな?

やえのちゃん

それならJA共済の「お役立ちコンテンツ」があるわよ。

ぴーなマン

「お役立ちコンテンツ」ってなあに? 詳しく教えて。

やえのちゃん

新型コロナウイルス感染症の影響でおうち時間が増えている中、快適・健康に過ごしてもらうとともに、子どもたちに楽しく交通ルールを学んでもらう取り組みなの。健康づくりの料理レシピや交通安全学習など、おうち時間を充実させるコンテンツをたくさん掲載しているのよ。インターネットで「JA共済 お役立ちコンテンツ」と検索すると見ることができるわ。

ぴーなマン

面白そうだね、さっそく見てみようかな。教えてくれてありがとう、やえのちゃん。

若手がキラリ

秦野の農産物のおいしさを多くの人に知ってもらおうと、農業・商業の両分野で若手が活躍している。農家と飲食店などが手を取り合い、さまざまな取り組みを進める他、若手農家が新たに農業経営士に認定されるなど、若手が秦野の農業の未来を支えている。

農・商両分野で活躍 秦野産の魅力伝える

ケーキにたっぷり 湘南ゴールドとほうじ茶

曲松の洋菓子店「パティスリー　クラベリーナ」が、秦野産かんきつ「湘南ゴールド」とほうじ茶を使ったケーキの販売を始めた。オーナーシェフの吉田伊織さん（38）が、地元農家の提供する農産物を使って作り上げ、洋菓子と果樹と茶のコラボレーションが実現。丹精して育てられた農産物のおいしさを巧みな製菓技術で引き出し、多くの消費者に魅力を伝えている。

ケーキは「湘南ゴールド」を皮ごと煮込んで作ったジャムと、ほうじ茶を煮出して作った濃厚なクリームとムースを層にしている。「湘南ゴールド」のさわやかな風味や皮の食感と、ほうじ茶の香ばしさが調和した上品な味わい。

材料を提供するのは、かんきつなどを生産する北矢名の宮村真樹さん（35）と、茶を生産する善提の高梨晃さん（33）の2人だ。吉田さんは毎年2、3月に、宮村さんから「湘南ゴールド」を仕入れてケーキを販売。

吉田さんは「かんきつや高梨さんの茶は育てられないが、ケーキに仕上げることはできる。技術を生かして地域に協力できれば」と笑顔を見せる。ショーケースの札には農園の名前を入れ、生産者のPRにもつなげている。「丁寧に作られていることが分かっている地元の農産物を使うのはもちろん、旬のものを新鮮な状態で使うのがこだわり。このケーキで秦野を感じてほしい」と熱意を見せた。

ケーキ「湘南ゴールドとほうじ茶」は、410円（税込み）で、3月下旬まで販売する。

洋菓子とかんきつと茶のコラボレーションが実現（左から宮村さん、吉田さん、高梨さん）

宮村さんが農業経営士に

洋菓子店にかんきつ「湘南ゴールド」を提供している宮村真樹さんが、秦野市農業経営士会に新しく加わった。書類審査などを経て、1月20日に黒岩祐治県知事から認定を受けた。

宮村さんは、短大の農学科を卒業後、20歳で就農した。現在はミカンやネーブルオレンジなど5品目以上のかんきつと、小松菜やホウレンソウなど年間10品目以上の野菜を栽培。かんきつは国産品の流通が少ない品種の栽培にも挑戦している。昨年は父と共に、就農を目指す人の研修を初めて受け入れ、後継者の育成にも尽力。秦野の農業活性化に一役買っている。

16日には、同会の山口孝嘉会長と秦野市役所を訪れ、県から認定を受けたことを高橋昌和市長に報告した。

宮村さんは「代々受け継がれてきた農地を守り、良質な農産物を消費者に届けるため精進していく。今後は就農する人が増えるよう農業を始める人のサポートもしていきたい」と意気込みを語った。

経営士に認定された宮村さん

カフェで野菜直売 来店者と農家の懸け橋に

栄町でカフェ「きょうのおやつとコーヒー」を営む浅倉学さん（38）は、有機栽培や自然栽培に取り組む地元の若手農家ら5人に、野菜の直売スペースを提供している。カフェの来店者と農家の懸け橋となる取り組みだ。

浅倉さんは、菓子作りが得意な妻の理明さん（35）と共に、2019年に店をオープン。できるだけ有機栽培の原料を使い、焼き菓子などを販売している。

直売スペースは、オープン当初から設置している。きっかけは、市内で有機栽培や自然栽培に取り組む農家が多いにも関わらず、専門的に販売している場所が少なかったこと、安全・安心な野菜の魅力や、地産地消の大切さを多くの人に知ってもらうとともに、地元農家を応援しようという思いから、提供を始めた。

現在野菜を並べているのは、カフェの仕入れ先の農家や、JAはだの青年部員の他、市などが取り組む「はだの市民農業塾」の卒業生など。ブースには、定番の品目から珍しい品目まで、さまざまな野菜が日替わりで並ぶ。来店者からは「有機野菜が近くで買えるのはうれしい」「子どもに安心して食べさせられる」と好評だ。

浅倉さんは「農家の方々が丹精して育てた野菜の魅力を発信するため、これからも応援を続けていく」と話した。

直売スペースを提供する浅倉さん

パンの加工所設置 野菜使い親子協力

東田原に開設されたばかりの加工所「まるきパン工房」で、桐生最さん（30）がパン作りを始めた。20日から、田原ふるさと公園で直売をスタート。販売開始前には両親の茂信さん（62）、なつみさん（61）と協力しながら、畑で育てた野菜や落花生を材料に、パンを試作。3月からは、加工所での直売も始める。

茂信さんとなつみさんは、約50㎡で20品目以上の露地野菜などを栽培している。もともと農産加工品に興味があり、なつみさんが「はだの市民農業塾」の加工セミナーコースを受講した他、JAの加工相談会を利用し、加工所の設置を検討してきた。貸家の1棟を改装し、ミキサーやオーブンなどの設備をそろえて、2月に念願の加工所が完成した。

パン作りには、最さんがパン店への勤務で積み重ねてきた技術が光る。畑で取れたニンジンをジャムにしたり、落花生あんを作ったりして農産物を使用。親子で協力して、農家ならではのオリジナルパンを作っている。

最さんは「両親が畑で栽培している野菜を中心に使い、季節ごとにさまざまなパンを開発する。他の材料もなるべく秦野産を使い、安全・安心なパンを届けていきたい」と話した。

試作したパンを味見する桐生さん親子

落花生の加工品人気

3種類が新登場

じばさんずで、市の特産である落花生の加工品が来店者から人気を集めている。加工品を製造・販売する農家と、加工品を担当する生活福祉課が連携。今年は新たにスコーン、マカロン、クッキーの3種類をラインアップし、秦野産落花生のおいしさを幅広い世代に伝えている。

農家とJAが連携する落花生の加工品開発は、2018年にスタートした。同課が市内の畑で栽培した落花生「改良半立」を出荷者に提供し、共にさまざまな加工品を考案。これまでに、赤飯や酢漬け、かりんとうなどの加工品を販売してきた。

加工品を開発した出荷者

JA役職員が率先購入 観光イチゴ園応援

JAはだの役職員が1月27、29日、2月1日の3日間、市内の観光イチゴ園を営む農家から、イチゴ合計158箱（1箱約1㌔入り）を購入した。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている観光イチゴ園を応援する取り組みだ。

市内の観光イチゴ園は、感染症対策を徹底しながら開園準備を進めてきた。しかし緊急事態宣言などの影響で、開園の見合わせや、開園している園でも来客数が例年の半分程度という状況が続いている。量り売りや量販店への出荷もしているが、販売先に限りがあるため、出荷できない大量のイチゴを廃棄していた。

そこで農家がJAに協力を依頼。全役職員を対象に購入を呼び掛け、「章姫」や「おいCベリー」などのイチゴを1箱2000円で販売した。倍に増やした。

同団体の小池勉代表らは昨年、35本の桜の栽培に挑戦。今回は、クラウドファンディングで集まった支援金で、八重桜の苗木を購入。遊休農地となっていた畑15㌃を整備し、準備を進めてきた。

当日は、ジョイント用の支柱に張った番線に沿って等間隔に穴を掘り、苗木を植えた。畑の横には、支援者の名前を刻んだ記念碑を建てた。

小池代表は「八重桜は市を代表する特産物の一つなので、地域の方々と協力しながら栽培の輪を広げていきたい」と話している。

職員にイチゴを手渡す農家㊨

遊休農地に八重桜300本

ジョイント仕立て規模拡大

農業で地域おこしに取り組む任意団体「フィールド・フォー・シチズン」のメンバーや農家ら14人が1月30日、柳川で八重桜の苗木300本を植え付けた。木と木をつないで低樹高化する「樹体ジョイント仕立て」を八重桜で活用する全国初の試みで、本数を昨年の約10倍に増やした。

苗木を植えるメンバーと地元農家ら

都市計画税の軽減を

常勤理事と意見交換

資産運用部会

資産運用部会は1日、本所で常勤理事との話し合いの場を設けた。新型コロナウイルス感染症防止のため、検温や手指の消毒、室内の換気を徹底した上で実施。部会員や常勤役員ら21人が出席し、都市計画税と特定生産緑地制度について話し合った。

両者は、市に要請し続けている都市計画税の軽減について、市の税収の現状や近隣市町の税率を挙げながら意見を交換。軽減に向けて、引き続き市に働き掛けていくことで一致した。

さらに同部会は、特定生産緑地制度について常勤理事に情報提供を依頼。市内での指定手続きの状況や、JAが市と連携して相談体制を確立したことなどについて報告を受けた。

都市計画税について意見を交換

農福連携で関係者が交流

はだの都市農業支援センターと市社会福祉協議会は16日、秦野市保健福祉センターで農福連携支援事業「マッチングの場づくり」を行った。農家やJA職員ら合計36人が参加し、農福連携の事例を学んだ他、福祉関係者と交流した。

農福連携は、農業の担い手確保と障害のある人の就労支援につなげようと、センターが県や市、市社協と連携して進めているもの。

社会福祉法人の代表者が、農福連携の事例を紹介。障害のある人が働きやすいように、作業内容を細かく分け、携われる作業を〝切り出す〟必要があることなどを説明した。その後、農業と福祉の関係者が班に分かれ、互いに課題や現状などを話し合った。

農福連携について話し合う関係者

No.451

発見 頑張り屋さん

盛り付けにもこだわり

平沢の一都築（つづき）　秀平（しゅうへい）さん（38）

平沢で「手打ちそば良庵」を営む都築秀平さん。東京都日野市で生まれ育ち、16歳で秦野市に移り住んだ。市内の高校を卒業後、工場で働きながら、父の良一さんが経営していた同店の前身である「大村庵」を手伝い、24歳で店を引き継いだ。当時は手打ちそばを提供していなかったため、手打ちそば店が多い市内で今後も営業していけるようにと、定休日に東京都町田市のそば店に通い、2年間修業した。2012年に改装オープンし、店名を「大村庵」から父の良一さんの漢字を取った「良庵」に変えて再スタートした。現在は、母の絹子さん、パート従業員含め6人で経営している。

提供している浅倉さん

——お薦めは？

「季節天野菜せいろ」が人気です。そばは、茨城県や北海道などの厳選したソバの実を毎朝石臼でひいています。つゆにもこだわり、かつお節や宗田節、さば節をブレンドしています。香りを引き立たせるため、注文を受けてから削るようにしています。

——こだわりは？

料理の味だけでなく見た目も重視しているので、外食ならではの特別感を味わってもらえるよう、盛り付ける器や皿一つ一つにこだわっています。

——趣味は？

休みの日には、よく釣りをしています。特に海釣りが好きで、岡県沼津市や大磯町などの海に行くことが多いです。

——今後は？

お客さんに「食べに来てよかった」と思ってもらえるよう、さらに技術を磨き、おいしい料理を提供していきたいです。

鳥獣対策で農家表彰

捕獲数とおり管理評価

はだの都市農業支援センターは9日、本所で「捕獲檻実績表彰式」を開いた。おりの管理を徹底し、野生動物による農産物への被害対策に尽力した農家を表彰するもの。今年度、最も多くの捕獲実績を挙げたことや、適切なおりの管理などが高く評価された。

近藤さんは「獣害により耕作意欲が低下して、荒廃農地が増えている現状をどうにか打開したいと考えている。強い気持ちを持って取り組んできたので、表彰してもらえてうれしい」と話した。

表彰を受けた近藤さん

害獣侵入防ぐ 電気柵を設置

堀山下地区

はだの都市農業支援センターの職員ら37人が参加した。

参加者は、電気柵の設置方法を確認した後に3人ずつ4班に分かれ、手分けして作業した。支柱を地中50㌢ほどの深さにハンマーで打ち込み、電線を5段階の高さで張り巡らせた。その他、電気柵を取り扱うメーカーの担当者が、電流が循環しやすいように各電線を縦に繋げる「渡り線」を約100㍍間隔で設置することなどを呼び掛けた。

電線を取り付ける農家

減らそう 農作業事故

農業機械の適切な使用へ

“安全第一”手順を再確認

農機の適切な使用を呼び掛けた講習会

やさい部会露地部は8日、堀西の畑で「農機安全講習会」を開いた。春の農繁期に向けて、農業機械の適切な使用方法を確認し、事故を防ぐことが目的。部員ら18人が参加した。

◇

農業機械メーカーの社員が、農作業事故の発生原因や年齢別の発生割合を紹介した後、トラクターや管理機、刈り払い機の使用上の注意点を説明。トラクターの運転中に、万が一転倒しても身を守れるよう、座席部分に付いている安全フレームを必ず起こすことや、硬い土を耕す時は管理機のロータリーをゆっくりと土に入れることなどを部員に呼び掛けた。

小林允部長は「講習会を通じて、面倒で省略してしまいがちな操作の重要性を再確認できた。部員には今後も安全第一で作業してもらいたい」と話した。

煙火の使用は安全に

追い払い方法を確認

はだの都市農業支援センターは1月21、28の両日、市内で動物駆逐用煙火の取り扱い講習会を開いた。参加者合計46人に、動物を追い払う煙火の安全な使用方法などを伝えた。

講習会では、県かながわ鳥獣被害対策支援センターの職員らが、動物を追い払うことの重要性を説明。イノシシや鹿、熊などを見かけた際は人間に近寄らせないため、煙火やゴム散弾などを使って必ず追い払うように呼び掛けた。

参加者は、屋外で実際に煙火を使って取り扱い方法を確認。けがをしないように直接手で持たずホルダーを使用することや、火を付けたら数秒おきに3発打ち上がることなどを確かめた。

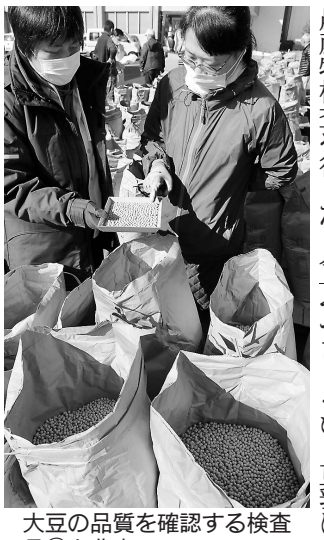
最後には、煙火5本と修了証を配布した。受講者が各支所などで修了証を提示すると、煙火を受け取ることができる。

煙火の使用方法を確認する受講者

大豆8・4トンを検査

加工品や手作りみその材料にも

ＪＡはだのは12月23日、1月21日、2月15日の3日間、本所で大豆の農産物検査を行った。今シーズンは合計8・4トンの品質を確認。検査した大豆は、農家や業者がみそやしょうゆ、豆乳に加工して、じばさんずなどで販売する。


大豆の品質を確認する検査員㊧と農家

検査員を務める営農課の職員が、農家が持ち寄った大豆を1袋ずつ開封してチェック。粒の大きさや色つや、形質などを確認し、等級を付けた。今年は種をまく時期に雨が続き、播種（はしゅ）の遅れによる影響が心配されたが、品質の良い大豆に仕上がった。

検査した大豆の多くは、県在来種で甘味の強さが特徴の「津久井在来」だ。生産者は、みその材料などとして使ってもらえるように加工前の大豆も同店で販売し、消費者から人気を集めている。

剪定の箇所を確認する部員ら

良質なミカン作ろう

技術向上へ剪定講習会

果樹部会柑橘（かんきつ）部は9日、南矢名の果樹園で、温州ミカンの剪定（せんてい）講習会を開いた。剪定技術を向上させ、良質なミカンを生産することが目的。部員の他、県農業技術センターと営農課の職員合わせて21人が参加した。

センター職員が「青島温州」と「大津四号」の剪定のポイントを解説。結実が多い年は樹勢が低下しやすいため、枝を多めに剪定することや、黒点病の原因となる枯れ枝を処理することなどを指導した。

尾澤英太郎部長は「今までは毎年同じように剪定していたが、実が多い年と少ない年で方法を変える必要があることが分かった。今後も教わったことを生かして、ミカンの品質をさらに上げていきたい」と話した。

JAグリーンは農家を応援します

特別価格で販売する除草剤

除草剤の割引キャンペーン実施

ＪＡグリーンはだのは３月６日（土）～14日（日）、除草剤の割引キャンペーンを実施します。期間中は「ラウンドアップ」や「プリグロックス」などの人気商品を特別価格で販売しますので、お得なこの機会をぜひご利用ください。

お問い合わせはＪＡグリーンはだのまで。☎81―7719

営農技術 ヒント・ポイント

かながわ鳥獣被害対策支援センター 0463-22-9521（内山・島田）
農業技術センター 普及指導部 0463-58-0333
• 果樹花き課　果樹花き（笹屋）（藤平）（吉岡）
• 作物加工課　作物（木村）　加工（中山）
• 野菜課

豆類

落花生の播種

▼種子の準備など

2～3月に莢（さや）をむいて種子を用意しましょう。種子に適している実の莢は、網目が明確かつ完熟した2粒莢で、白くて若干黄色を帯び、適度な「くびれ」があるものです。莢をむいたら6ミリ目のふるいにかけます。種皮が赤みがかって光沢のあるものを選びましょう。10アール当たり、むき実で4～5キロを用意します。種皮がむけたものは病気にかかりやすいので、取り除いてください。

▼栽培土壌について

落花生は干ばつに強いですが、湿害を受けやすいため、水はけが良い圃場（ほじょう）を選びましょう。土壌の水素イオン指数（pH）が低い場合は、石灰資材を施用してpH5～6に調整してください。

土壌のpHが高い場合は、アルカリ性肥料を施用しないように注意しましょう。生育初期には窒素が必要になるので、土壌診断に基づいて元肥を施用してください。元肥の目安は、10アール当たり、窒素、リン酸、カリ＝2・4、5・6、8・0キロです。

堆肥を施用する場合は、播種の1カ月前までに行ってください。未熟堆肥の施用は、コガネムシ類の幼虫被害を増加させるので、完熟した堆肥を施用してください。土壌中のカルシウム成分が少ないと空莢が増えるので、元肥には必ず石灰資材を施用してください。

▼病害虫の防除について

コガネムシ類の幼虫防除は、播種前に薬剤を土壌混和するか、播溝に施用しましょう。連作すると白絹病が発生しやすいので、圃場を変えるか、麦類・野菜（キャベツ、ハクサイ、ダイコン）と輪作してください。

▼播種

播種（はしゅ）は5月中旬に行います。栽植密度は普通栽培で、あぜ幅60センチ、株間25センチにします。マルチ栽培のベッドは「改良半立」で幅75センチ、株間24センチ、「郷の香」で幅75センチ、株間18センチを基準とします。播種の深さは、3～4センチとします。鳥害対策は、種子塗布用の忌避剤の使用や、不織布をベタ掛けするとよいでしょう。

（木村）

文芸の窓

〈俳句〉（酒井　敏光　選）

元寇の浜に石垣実朝忌　志賀　明子（千　村）
コロナ禍の止む日を祈る梅の寺　芦川　松江（八　沢）
実朝忌金塊集に草青む　石原　松枝（渋　沢）
折々の塚の木の歌実朝忌　柴崎　和子（渋　沢）
鎌倉の墓参りなり実朝忌　高橋　順子（大秦町）
八百世経し碑に皹の入る実朝忌　柳川みち子（栄　町）
実朝忌どれもいびつで闇深し　佐藤英美子（南矢名）
一葉も置かぬ銀杏や実朝忌　森高　由子（渋　沢）
山の風ぶつかり合うて実朝忌　高島美和子（名古木）
汐ざらし荒磯の礁や実朝忌　吉田　清美（渋　沢）
実朝忌黒鉄輝るまで洗ふ　菊池としえ（菩　提）
山河疾くスマホに拓け実朝忌　選者

〈短歌〉（久保寺　富男　選）

大根の産地は安値と聞くこの冬
我が家の軒先切干し並ぶ　伊東　久（渋　沢）

評　暖冬で豊作貧乏とぞ、市場経済は需給次第。金に頼ればこの始末。もので暮らせば豊作貧乏はないというがはてさて、二宮金次郎の時代には戻れまい。

被爆者の平和の願い核禁止
条約なりて一歩を踏み出す　細田　富士（千　村）
あらかたは中高年の患者なり
整形外科の待合にわが身も　今井　かめ（羽　根）
病院の玄関に検温の看護師に
笑みのこぼるる幼子の来れば　八木　実（鶴巻北）
小笠原の海の静けし沖はるか
朽ちたる廃船の波に洗わる　石田こずゑ（水神町）
とのくもる空より春の降りつみて
冬木の疎林のこぬれ明るむ　選者

※選者による添削あり

今月の理事会

2月12日と22日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽組合長理事の選任について
▽代表理事の選任について
▽2021年度内部監査計画について
▽2021年度コンプライアンス・プログラムについて
▽内部統制システム基本方針について
▽2021年度内部統制整備取組計画について
▽2020年度決算方針（案）について
▽職制規程の改正について
▽固定資産減損会計の「資産グループの変更」について
▽㈱協同コンサルトはだの第33期（2021年度）営業計画書（案）について
▽総代選挙管理者等の選任について
▽第58回通常総代会における表彰・感謝状の内申基準について
▽2020年度期末賞与の支給について
▽就業規則の改正について
▽2021年度余裕金運用方針について
▽2021年度借入金の最高限度額の設定について
▽貸出金基準金利の改正について
▽貸出条件変更の申し込みについて

組合長理事に宮永均氏を選出

山口政雄組合長の死去に伴い、2月12日開催の理事会で組合長理事の互選を行った。後任の組合長理事に宮永均氏（写真）を選出し、同日就任した。

電気柵資材購入の助成

21年度継続　上限3万円

ＪＡはだのは、電気柵資材を購入した組合員に対する助成制度を2021年度も継続します。この制度は、ＪＡの営農経済改革の一環で16年に始まったものです。21年1月末までに延べ696人が制度を利用し、助成金額は合計で1491万円に上っています。ＪＡグリーンはだのは、電牧器や危険表示板などを単品で販売する他、必要な資材がそろったセットも販売しています。

◇助成制度
◎助成金額　購入費用の半額（上限3万円）
◎助成回数　ＪＡの1事業年度（3月～翌年2月）当たり1世帯1回まで
◎申請受け付け　2022年2月末まで
◇販売しているセット
◎Ａセット（100㍍用）3万6070円（税込み）
◎Ｂセット（200㍍用）5万3490円（税込み）
◎Ｃセット（400㍍用）8万8330円（税込み）

お問い合わせは、ＪＡグリーンはだのまで。☎81－7719

秦野の農家ご飯

焼きびん

大根支部　高橋（たかはし）　時子（ときこ）さん

■材料（24個分）■

Ａ（蒸しパンミックス200㌘、米粉250㌘、卵１個、牛乳250cc、砂糖大さじ１）、水300cc、小豆あん500㌘、サラダ油大さじ１

〈作り方〉

①Ａと水240ccをよく混ぜ合わせる。滑らかになったら、残りの水60ccを少しずつ足して混ぜる。
②小豆あんは24等分にして丸め、押しつぶしておく。
③型付きの鉄板を弱火で熱し、油をなじませる。
④①の生地を型の半分ほど流し、②のあんを乗せて再び生地を流し込む。
⑤周りにプツプツと穴ができ始めたら縁に串を刺し、ひっくり返して形を整える。
⑥２～３分焼いて生地に焼き色が付いたら完成。

〈ひとことアドバイス〉

焼きびんは、下大槻地区の夏まつりで作られている伝統的なお菓子です。鉄板は、大判焼き用の６穴型鉄板を使用しました。落花生やサツマイモのあんを入れてもおいしくできます。

長寿者に記念品贈呈

いきいきライフ支援事業

おめでとうございます。末永くお元気でお過ごしください。

88歳（米寿）

▽北地区＝三嶽システム（羽根）松浦國芳（菩提）

77歳（喜寿）

▽大根地区＝須藤弘（南矢名）佐々木信隆（北矢名）
▽本町地区＝三川吉次（曽屋）中田邦彦（曽屋）渡邉冨美子（曽屋）
▽東地区＝霜田文子（西田原）
▽西地区＝稲毛君枝（渋沢）林スミ子（堀西）小室堅司（渋沢）飯田久江（春日町）
▽上地区＝守屋純枝（柳川）髙橋公江（菖蒲）秋山重夫（菖蒲）

※自己申告ですので、該当の方は誕生月の前月末までに各支所・支店にご連絡ください。

旬の農産物の収穫などを体験

満喫ＣＬＵＢ会員を募集

はだの都市農業支援センターは、旬の農産物の収穫などが体験できる「はだの農業満喫ＣＬＵＢ」の会員を募集しています。登録は無料で、会員には3、8月の年2回、センターが開催する観光農業の情報をメールでお届けしますので、ぜひご登録ください。

登録方法は、携帯電話やスマートフォンで次のＱＲコードを読み取って、メール配信登録フォームにアクセスします。メールアドレスや名前などの必要事項を入力するだけで、簡単に登録できます。

「はだの農業満喫ＣＬＵＢ」は、田植えから稲刈りまでの米作りが体験できる「田んぼ農園オーナー」の他、タケノコや新タマネギの収穫体験など、さまざまな企画を用意しています。

なかなか遠くに出掛けられない今だからこそ、農業体験を通じて秦野の魅力を再発見してみませんか。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催方法などが変更になる場合がありますので、ご了承ください。

お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

税務相談日　３月９日（火）　午前９時30分～
法務相談日　３月19日（金）　午後１時30分～
場所　本町支所
予約制ですので、事前にお電話にてご予約をお願いします。受け付け順に相談時間が決まります。
受け付け・ご予約は㈱協同コンサルトはだの　☎81－2329

JAマイカーローン
お客さまのカーライフを応援します
お使いみち　自動車・バイク購入費用、カー用品購入費用、他社自動車ローンの借換、運転免許取得費用、車検費用などカーライフに関するもの。
インターネットでかんたん事前審査申し込み！　QRコード読み取り可能な端末はこちらから
PC・スマートフォンでご利用可能！　JAはだの　検索
詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

JA住宅ローン
マイホームプランを応援します
お使いみち　住宅の新築・購入（中古住宅も含む）、マンションの購入、土地の購入（2年以内に新築し、居住する予定があること）、住宅の増改築・改装・補修資金など住宅取得費用に関するもの。
環境配慮型設備等新規導入で７万円助成　対象設備等（太陽光発電システム、エコキュート、長期優良住宅 等）
※その他、詳しくは窓口までお問い合わせ下さい。
詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

にんじんポタージュをアレンジ
部員がレシピ考案

JAはだのは、地場産のニンジンを加工した「アロマレッドのにんじんポタージュ」のアレンジレシピを女性部員から募集した。ポタージュのPRにつなげるとともに、部員の活躍できる場を増やそうと企画。集まったレシピの中から4種類を選び、じばさんずで多くの来店者に配布した。

募集のきっかけは、今シーズンのポタージュの販売が始まったこと。JAは毎年試飲会を開いていたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のためPR方法を変更。部員に協力を依頼してアレンジ料理を展示し、レシピを配布して販売促進につなげることにした。

女性部はこれまで、年間を通してさまざまな料理教室などを開いていたが、昨年から料理に関する活動はほとんど中止。料理が得意な部員が力を発揮できる場が減っていたため、JAの依頼に応え、支部会で部員にレシピの考案を呼び掛けた。

集まったレシピは、パスタやソーセージのポタージュ煮の他、ホットケーキやゼリーなど。主食からデザートまで幅広いレシピがそろった。16日には、レシピを考案した部員の一人である合田久美子さんとJA職員が、対面販売で調理の見本として並べる4種類の料理を試作。材料の分量やゆでる時間などを確認しながら、ポタージュのアレンジ料理を仕上げた。17日にはじばさんずの店頭に完成した料理を並べ、来店者にレシピを配りながらポタージュを販売した。

JAは「部員が活躍できる場を今後も増やしていきたい。料理が得意な部員が考案したレシピを参考に、おうち時間で作ってもらえば」と話した。

レシピを参考にポタージュをアレンジ

種駒を打ち込む部員

シイタケほだ木作り
毎年恒例 人気の活動

南支部と北支部は9日、上支部は10日に、各支所でシイタケのほだ木を作った。3支部合わせて44人の部員が、185本のほだ木を完成させた。

部員は、コナラの原木に電動ドリルで穴を24～28カ所開け、木づちでシイタケ菌の種駒を打ち込んだ。完成したほだ木は各自家に持ち帰り、シイタケ菌が活着するように湿度や温度を管理していく。シイタケは1年から1年半ほどで収穫できる。

シイタケのほだ木作りは2003年からスタート。手軽にシイタケを栽培できることから、毎年恒例となっている活動の一つ。

参加した部員の一人は「おいしいシイタケが取れるよう、しっかり管理していきたい。収穫するのが楽しみ」と話した。

等間隔に穴を開けた

普段使いできるオリジナルグッズ

ポイント景品 オリジナルグッズ製作
たまった数に応じて進呈

女性部は、今年度初めて導入したポイントカード制度の景品を製作した。昨年3月から2月までの1年間でたまったポイント数に応じ、プレゼントするもの。同制度のプロジェクトチームがポイント数を集計し、3月上旬に各支所で行う支部会で配布する予定だ。

◇

景品は、タンブラーとトートバッグ、ウエットティッシュの3種類。普段の生活で使いやすいものを作った。グッズには、JAオリジナルキャラクター「やえのちゃん」「ぴーなマン」のイラストと女性部のロゴをプリントし、かわいらしくオリジナリティーあふれるグッズに仕上げた。0ポイント、1～9ポイント、10ポイント以上の3段階に分けて部員にプレゼントする。

タンブラーなど3種類 使いやすさ重視

同制度は、部員にポイントカードを発行し、参加した活動の内容に応じて1～3個のスタンプを押す。部の活動に積極的に参加してもらうとともに、新しい支部活動などを企画するきっかけにするため、昨年6月に導入した。

プロジェクトメンバーの一人、桐山容子さんは「ポイントをためてグッズを集めたいと思ってもらえるように、毎年違う景品を作っていきたい。女性部活動に参加するきっかけにもなれば」と話した。

いきいき女性部活動

上支部
久所班　班長
和田（わだ） 初音（はつね）さん

私たちの班は、6人で活動しています。

支部活動をはじめ、女性部運動会、農業まつりなどの行事に積極的に参加して、交流を楽しんでいます。

活動の中でも、一泊旅行は羽目を外すほど楽しみ、ストレスを発散してリフレッシュできるので、翌日から新鮮な気持ちで過ごすことができます。また、女性部の共同購入がパルシステムに移行にされましたが、私たちの班では全員がパルシステムの組合員に加入し、利用しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、思うように活動できていませんが、これからもみんなで楽しく活動していきたいと思います。

支部だより

大根支部

スマホ教室

大根支部は1月28日、大根支所でスマホ教室を開いた。午前と午後の2回に分けて開催し、21人が参加した。

（一社）家の光協会の橋本智也局次長が講師を務めた。橋本局次長は、スマートフォンの画面や操作方法などを詳しく掲載した資料を使い、モバイルメッセンジャーアプリ「LINE」の基本操作を分かりやすく説明した。『家の光』11月号に掲載されているオンラインの活用記事や、新型コロナウイルス感染症の関連特設サイト「家活」についても紹介し、おうち時間を有効活用してもらうよう呼び掛けた。

部員は、操作方法を教わった後、実際にスマートフォンを使って「LINE」のダウンロードや画像の送信を行った他、「友だち追加」した部員同士でグループを作成した。

橋本氏㊧のサポートで操作する部員

3月の女性部行事予定表

4日（木）	13：30～新本部役員候補者研修会
9日（火）	9：00～女性部総会打ち合わせ
〃	10：30～本部役員会
11日（木）	14：00～平塚・厚木地区女性組織協議会会議
12日（金）	9：30～支部役員会（大根・本町・西）
〃	13：30～支部役員会（東・上）
15日（月）	9：30～支部役員会（南）
〃	13：30～支部役員会（北）
16日（火）	9：30～目的別趣味グループ代表者会議
25日（木）	14：00～第53回女性部総会
29日（月）	10：00～歩こう会代表者会議

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定が変更になる場合があります。お問い合わせは、生活福祉課まで。☎72―7661

告知板

神奈川石油での購買カード利用について

ＪＡはだの指定給油所である㈱神奈川石油では、出光興産と昭和シェル石油の合併による経営体制の変更のため、３月31日（水）をもって「ＪＡはだの組合員購買カード」が利用できなくなります。

ＪＡはだの各給油所では、引き続き購買カードが利用できます。ご不便をお掛けしますが、組合員の皆さまのご理解をお願いします。

お問い合わせは、経済課まで。☎81－7717

２月28日（日）の営業時間について

２月28日（日）は棚卸しのため、次の店舗で営業時間を変更します。

◎特産センター渋沢店
午前９時～午後３時

◎ＪＡグリーンはだの
午前７時30分～午後３時

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

セレモニーホールで安心のご葬儀

ＪＡセレモニーホールはだのは、ゆったりとした施設で「密」を避けた家族葬にも対応しています。受け付けは24時間対応で、病院へのお迎えからサポートします。

お問い合わせは、ＪＡセレモニーホールはだのまで。☎83－2727

加工品の相談を受け付け

農産加工品について、県農業技術センターとＪＡの職員が市内を巡回し、相談をお受けします。お気軽にご相談ください。

じばさんず・特産センタースタッフ募集

じばさんずと特産センター渋沢店は、パート・アルバイトスタッフを募集しています。働きやすい職場ですので、お気軽にお電話ください。

◇じばさんず

◎業務内容　レジおよび品出しなど

◎時給　１０２５円

◎時間　午前８時30分～午後７時　※時間内でシフト制

◎日時　３月18日（木）午前10時～午後４時

相談のお申し込み・お問い合わせは、生活福祉課まで。☎72－7661

◇特産センター渋沢店

◎業務内容　レジおよび品出しなど

◎時給　１０１５円

◎時間　午後４時～午後８時30分　※シフト制

◎待遇　社会保険完備・交通費規定支給など

お問い合わせは、じばさんずまで。☎81－7707

じばさんず NEWS

新型コロナウイルス感染症対策のため、入店の際はマスクの着用と手指の消毒をお願いします。

【３月のイベント】

☆「産地商品の特売」２日（火）、23日（火）、30日（火）
産地間提携を結ぶＪＡの農産物や加工品などを特別価格で販売します。

☆「旬の果物・野菜フェア」６日（土）、７日（日）、13日（土）、14日（日）
秦野産の旬の果物や野菜にスポットを当てて販売します。

☆「お彼岸フェア」16日（火）～21日（日）
秦野産の切り花や、出荷者手作りの加工品などを豊富にご用意します。

☆「お茶フェア」20日（土）、21日（日）、27日（土）、28日（日）
生産者が丹精して育てた秦野産の茶を販売します。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日
店頭価格から10％引き。「みくるべたまご」は除く。

☆「お米の日」毎週水曜日
店頭価格から10％引き。

☆「肉の日」毎週木曜日と29日
店頭価格から５％引き。

◎３月９日（火）は定休日です。

※感染症の影響により、試食イベントは休止しています。他のイベントも変更になることがありますので、ご了承ください。

今月の生産者

名古木の　佐野（さの）　浩司（こうじ）さん

生産品目　ミニ白菜やミニキャベツなど

年間を通じて約20種類

定番の野菜の他、珍しくておいしい野菜を栽培するため、日々栽培技術を磨いています。

この時期に出荷している芽キャベツは、茎ごと販売しています。実は手で簡単にもぎとれるので、子どもにも人気です。おいしく食べてもらえるようレシピも付けています。ぜひ参考にしてみてください。

あの人　この人

農園で親しまれる虫博士の桃花ちゃん

農園で人気のかわいい虫博士

今泉の辻桃花ちゃん

南小学校２年生の辻桃花ちゃんは、平沢の体験型農園「名水湧く湧く（わくわく）農園」で、園主や利用者から〝虫博士〟と呼ばれて親しまれている。

桃花ちゃんは、虫を紹介するテレビ番組を見たことがきっかけで、虫に興味を持つようになった。昨年４月からは、父の浩亘さんと一緒に農園で野菜を栽培。葉や実が虫に食べられてしまったことから、畑で見つけた虫を詳しく調べている。

農園では、虫に悩まされている利用者がいたことから、手書きで張り紙を作成。ヨトウムシやモンシロチョウなどの特徴や、潜んでいる場所を解説している。

桃花ちゃんは「畑でよく見る虫のことを調べて書いた。これから他の虫のこともたくさん調べてみたい」と笑顔で話した。

さわやか農園利用者募集

ＪＡはだのが荒廃農地対策の一環として設けている市民農園「さわやか農園」について、南支所管内の農園で利用者を募集しています。区画が埋まり次第終了となります。

お問い合わせは、南支所まで。☎81－0268

トラクター耕うんプロにお任せ

ＪＡはだのは、農地の有効活用や荒廃地解消、農作業の省力化を図るため、農家の協力でトラクター耕うんの委託制度を設けています。農繁期に向けて、お気軽にご利用ください。

◎料金　10アール当たり、１回１万円。２回の場合は１万５０００円。※耕地の地形によって割増料金となることがあります。

◎注意事項　耕うんは通常の耕地（畑・水田）に限ります。作業に適さない圃場（ほじょう）は耕うんできない場合があります。作業中に機械が破損した場合は、耕うん料金とは別に修理代の実費がかかります。

お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

農業労災に加入を

市内では今年度、７件の農業労災事故が発生しています。組合員の営農と生活を守るため、農業労働災害保険の加入促進運動を実施しています。

◎運動期間　３月15日（月）まで

◎補償期間　４月１日から翌年３月31日までの１年間

お問い合わせ・お申し込みは、各支所・支店または、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

野焼きの際は配慮・注意を

屋外での焼却（野焼き）は「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」で禁止されています。

ただし、農林業者については、自己の農業・林業の作業に伴って行う焼却で、軽微なものに限り、例外として認められています。

やむを得ず農地などで野焼きを行う際は、マルチなどのプラスチックを取り除き、煙などによる周囲の生活環境への影響がないように、乾燥させてから少量ずつ焼却してください。風向き、時間帯などの配慮をお願いします。

野焼きは「秦野市火災予防条例」第48条の規定に該当するため、３日前までに、最寄りの消防署または分署に届け出てください。

野焼きによる火災を防止するため、消火用具を用意するとともに、火がついている間は目を離さず、終了後は確実な消火をお願いします。

お問い合わせは、市生活環境課☎86－6037、または市消防署消防管理課☎81－7991まで。

生産緑地地区の取得あっせんについて

生産緑地法第13条に基づき、秦野市から次の土地について生産緑地のあっせん依頼がありました。

◎場所　堀山下509番2

◎地目　畑

◎面積　885平方メートル

農業に従事される方で、生産緑地として取得を希望される方は、市農業委員会事務局農地利用担当へご連絡を。☎82－9654

募集　JA正職員

応募資格	2022年3月に大学または短大を卒業予定の方、あるいは卒業後3年以内の方
募集人員	若干名
職種	JA業務全般に携われる方
応募受付期間	3月1日(月)から5月6日(木)まで
応募方法	マイナビ2022のウェブサイトで「JAはだの」と検索してください。右記QRコードからもアクセスできます。
お問い合わせ先	〒257-0015　秦野市平沢477番地 秦野市農業協同組合　企画管理部　総務課 TEL.0463-81-7711(平日午前8時30分～午後5時)